

島根大学医学部附属病院における 基幹型認知症疾患医療センターとしての取組み

島根大学医学部附属病院 基幹型認知症疾患医療センター

長濱道治 新藤 舞 長子由香理 横木陽子
金井由貴枝 岩佐憲一 安部哲史 橋岡禎征
長井 篤

はじめに

島根県は、全国的にみても高齢化率が高い県である。
島根県は横に長い(東西に広い)医療圏域であり、
松江圏域・出雲圏域など
県の東部に大きめの医療機関が集中する。

島根大学医学部附属病院(出雲圏域)における
基幹型認知症疾患医療センター(当センター)
としての取組みについて報告する。

当センターの御紹介(1)

<沿革>

2011年9月

しまね認知症疾患医療センターが
島根大学医学部附属病院に設置。

2015年8月

基幹型として活動。

当センターの御紹介(2)

＜事業概要＞

- **認知症の確定診断**：「もの忘れ外来」
- **認知症についての最新情報の提供や助言**：
講演会を通じて、情報・知識の普及
- **地域連携の推進**：研修会や講演会を通じて、
地域保健・医療・介護の連携を推進

当センターの御紹介(3)

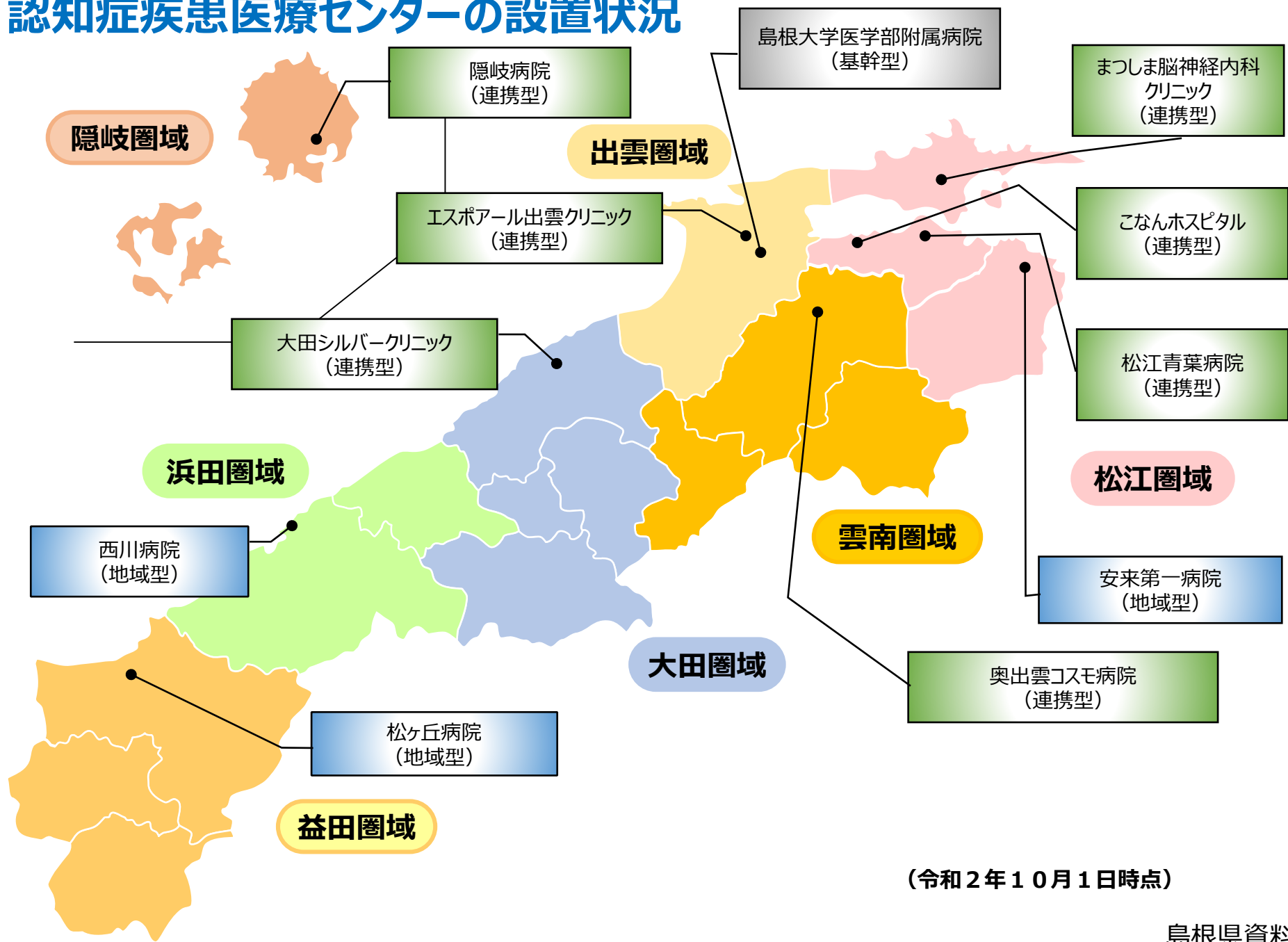
<スタッフ>

脳神経内科医：4名 精神科医：2名

精神保健福祉士・社会福祉士：1名

心理検査員：1名 看護師：2名

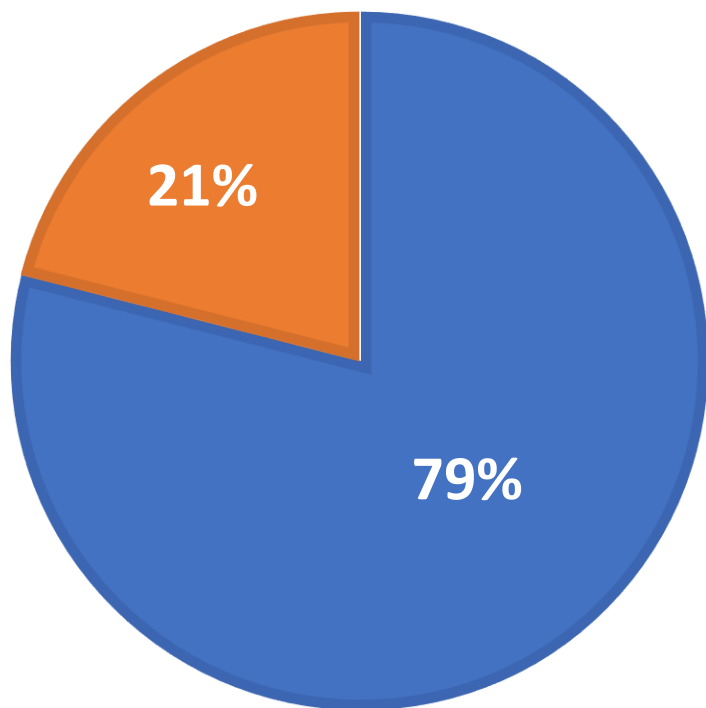
認知症疾患医療センターの設置状況



(令和2年10月1日時点)

もの忘れ外来の状況

2020年度もの忘れ外来への院外・院内からの紹介状況



■ 院外紹介 ■ 院内紹介

初回診察

かかりつけ医等からの紹介



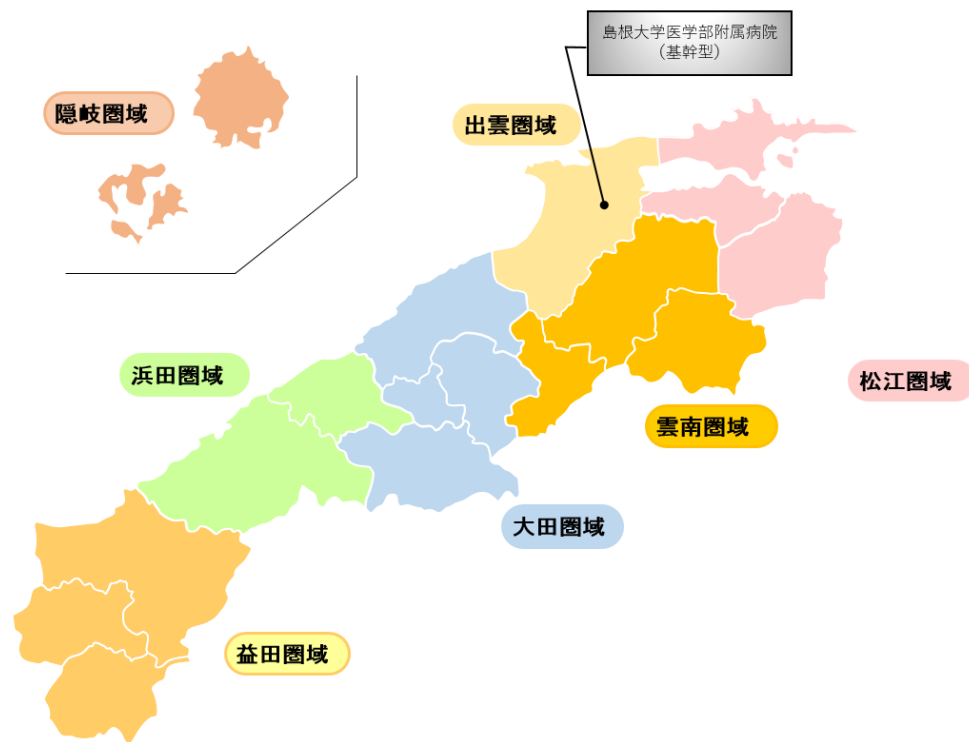
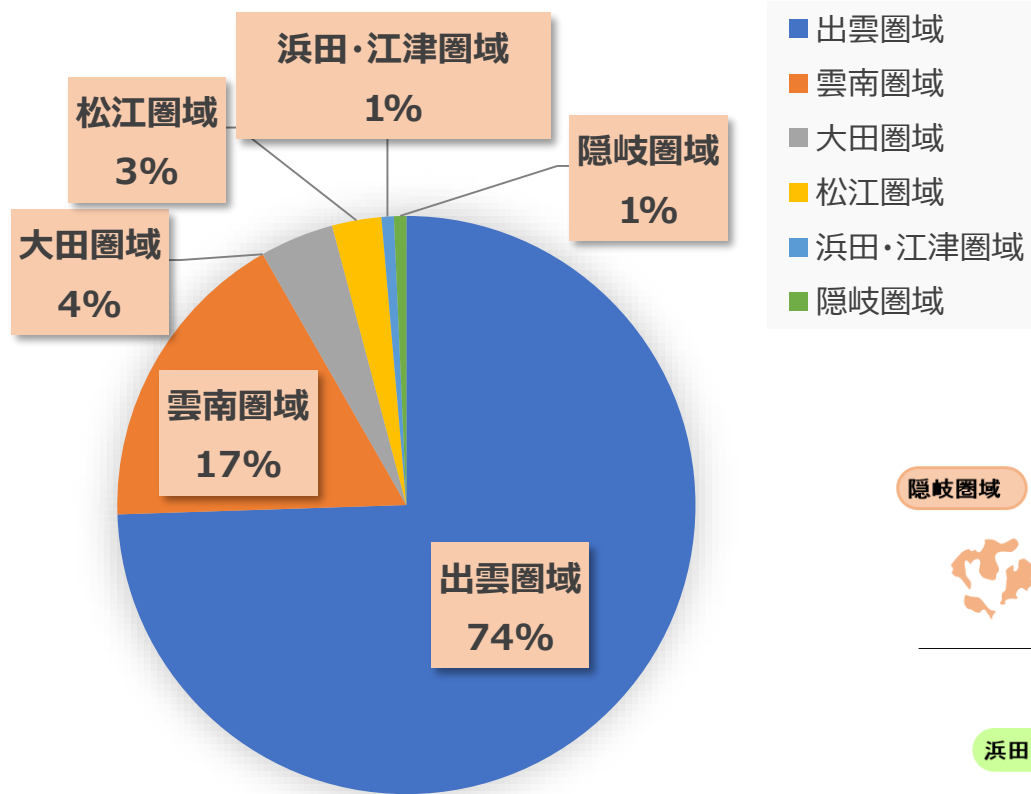
検査

MRI等の画像検査や心理検査等を実施



結果説明

2020年度もの忘れ外来の圏域別の受診状況（初診のみ）



もの忘れ外来受診でよくあるご相談

- もの忘れが多くなった
- さっき話したことをすぐ忘れてしまう
- どこに置いたか分からないことが多くなった
- 薬の管理や家事が難しくなった
- 買い物やお金の管理が難しくなった
- 物事に興味がなくなってきた
- 怒りっぽくなった
- ものを盗まれたなど、実際にはないことを訴えることがある
- 実際にはいないのに**人が見える**、声聞こえる
- 運転免許**について

など・・・

もの忘れ外来で希望されること

- 認知症かどうか相談したい。診断をしてほしい。
- 症状が進んでいるため、今どんな状態なのか知りたい。
- 症状の対応について相談したい。
- 進行を穏やかにする薬を処方してほしい。
- 介護保健のサービスや診断書について相談したい。
- **運転免許・診断書**に関する相談がしたい。

など・・

もの忘れ外来で行うこと

脳神経内科

センタースタッフ
による家族面談

検査員による認知機能検査

医師の診察

精神科

センタースタッフ
による本人・家族面談

医師の診察

臨床心理士による心理検査

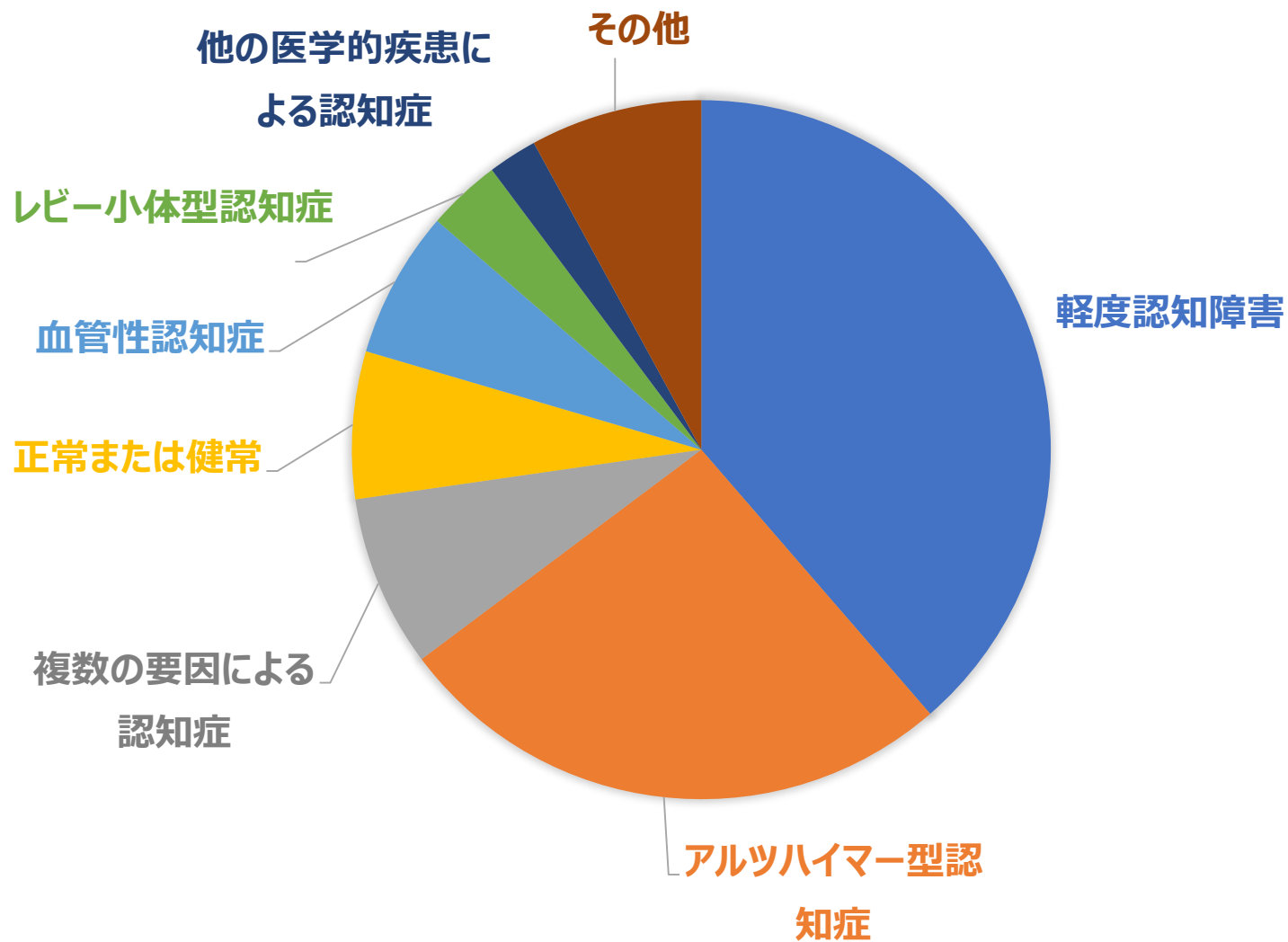
血液検査

MRI

脳血流シンチ

結果説明

2020年度鑑別診断内訳



もの忘れ外来の状況

- 診断としては軽度認知障害が多く、次いでアルツハイマー型認知症であった。
⇒はやめの受診が多くなっているのではないか？
- レビー小体型認知症のケースもしばしばみられる
- 若年性認知症のケースもみられる
- 自動車運転に関する相談もある

情報発信・普及啓発/地域連携

情報発信・普及啓発/地域連携

- 認知症疾患医療連携協議会(年に1回)

⇒対象は、**認知症サポート医**、市町村及び地域包括支援センター、保健所、認知症疾患医療センター
各センターからの情報提供、**サポート医**の活動報告、グループワークなど

- 認知症研修会(年に1回)

⇒対象は、認知症の人や家族にかかわる医療・介護・福祉・行政関係者

- 認知症セミナー(院内研修)

⇒対象は、院内の職員

- **認知症サポート医**研修会(年に3回程度)

⇒サポート医がもちまわりで講演

島根県内の認知症サポート医（敬称略）

R3. 8月末現在 96名（養成数112名）

（R2年度養成数4名）

隠岐の島町(2)

有田茂夫、加藤一朗<隠岐病院>

西ノ島町(1)

福田瑤子<隠岐島前病院>

海士町(2)

木田川利行、前田孝弘<海士診療所>

出雲市(16)

高橋幸男<エスポアール出雲クリニック>
深田倍行<深田医院>
土谷治久<佐田診療所>
安部哲史、長濱道治<島根大学医学部附属病院>
石橋和樹<島根県立中央病院>
白澤 明、濱田智津子<出雲総合医療センター>
山本大介<出雲特州会病院>
金森 隆<斐川生協病院>
山崎俊樹<あいあいクリニック>
河野公範<海星病院>
津村弘人<つむらファミリークリニック>
石川 厚<石川脳神経内科医院>
豊田元哉<とよだ内科頭痛クリニック>
高尾碧<こころの医療センター>

松江市(23)

櫻井照久、福田賢司、高村睦代
<こなんホスピタル>
細田眞司<こころの診療所細田クリニック>
松嶋永治<まつしま脳神経内科クリニック>
妹尾晴夫、柴田昌洋、百瀬 勇、宮岡剛
<松江青葉病院>
下山良二<松江医療センター>
吉岡太佑<吉岡医院>
杉谷美代子<いんべ杉谷内科小児科醫院>
内藤 篤<松江記念病院>
萬代恵治<松江刑務所>
松本和也<入澤クリニック>
中島健二、古和久典、深田育代
<松江医療センター>
野津立秋<野津医院>
泉 明夫<泉胃腸科医院>
伊達伸也<東部島根医療福祉センター>
坂之上史、田野俊平<鹿島病院>

安来市(11)

杉原徳郎<杉原クリニック>
野坂啓介<野坂医院>
片山征爾、竹下久由、卜藏浩和、鎌田佳代子、江原真理子、
小村文明、角暁美、新宮左知子
<安来第一病院>
新田則之<介護老人保健施設昌寿苑>

浜田市(8)

中村慎一<中村医院>
田中新一<心療内科田中クリニック>
彌重博巳<彌重内科眼科医院>
沖田浩一<沖田内科医院>
松本貴久<西川病院>
北條宣政、井上幸哉
<浜田医療センター>
笠田 守<笠田医院>

江津市(5)

中澤芳夫、関本 裕、堀江 裕
<済生会江津総合病院>
山崎一成<山崎病院>
花田有二<花田医院>

大田市(4)

岡田和悟<大田シルバークリニック>
梅枝伸行<うめがえ内科クリニック>
安田英彰<石東病院>
山形真吾<大田総合医育センター>

川本町(2)

加藤節司、山口拓也<加藤病院>

美郷町(1)

秦 憲明<秦クリニック>

邑南町(4)

河野圭一<河野医院>
高橋亮吏<星ヶ丘クリニック>
周藤由紀美<三笠記念クリニック>
中村和史<邑智病院>

雲南市(3)

今岡大輔<奥出雲コスモ病院>
笠 芳紀<雲南市立病院>
小黒浩明<平成記念病院>

奥出雲町(2)

山根冠児<永生クリニック>
遠藤健史<奥出雲町立病院>

飯南町(1)

松本賢治<飯南病院>

下線のある医師はR2年度新規養成
(市町村名は所属医療機関所在地)

益田市(8)

坪内健、藤木僚<松ヶ丘病院>
木谷光博<益田赤十字病院>
金島新一<金島胃腸科外科>
大森治樹<石見クリニック>
篠崎克也<さくらクリニック>
井上貴雄<あすかクリニック>
松本祐二<松本医院>

津和野町(1)

飯島献一<津和野共存病院>

吉賀町(2)

小笠原康二<小笠原医院>
谷浦博之<六日市病院>

認知症サポート医の活動 等に関する実態調査につ いて

島根県健康福祉部 高齢者福祉課
地域包括ケア推進室



「しまねの地域包括ケア」ポータルサイト開設

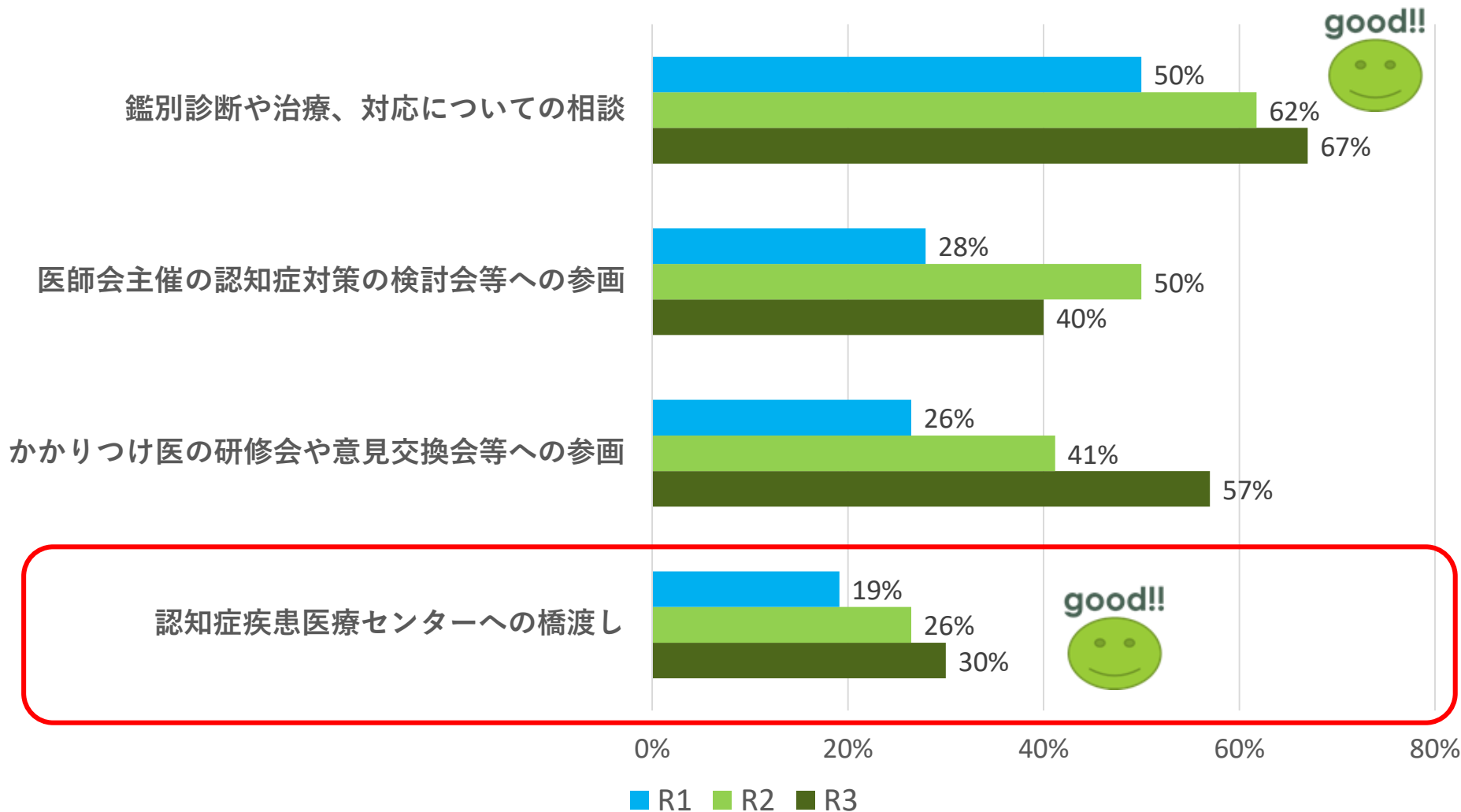


QRコード
携帯電話で
ホームページに
アクセスできます。

令和3年度認知症サポート医の活動に関する実態調査より

結果1 これまでの活動について

かかりつけ医や医師会との連携（要請）による活動



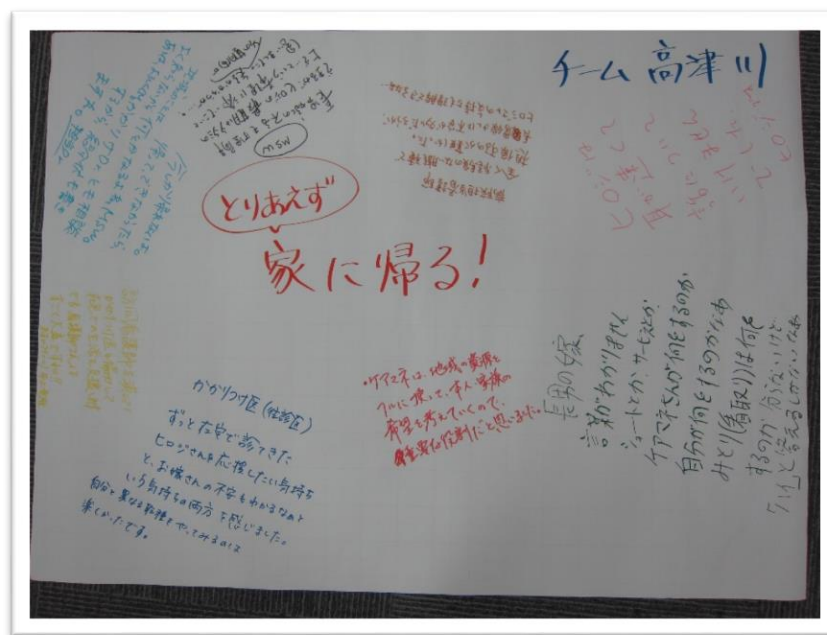
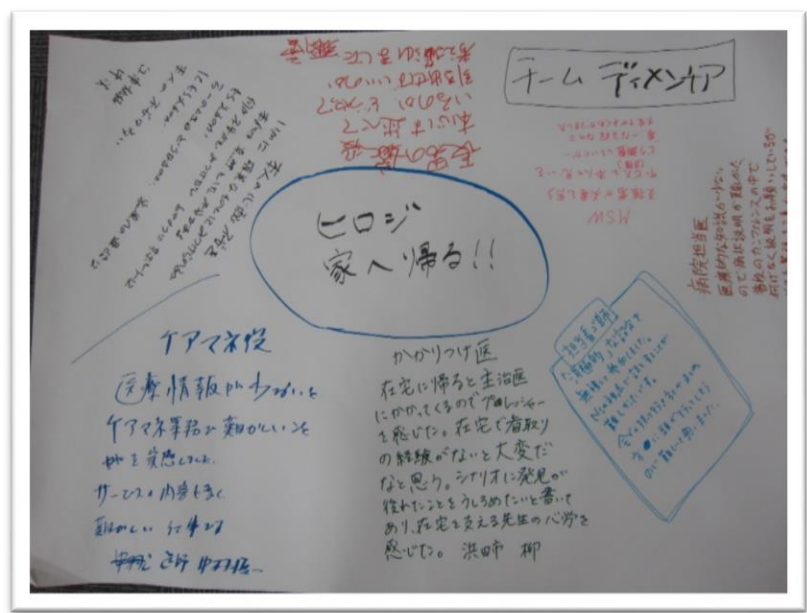
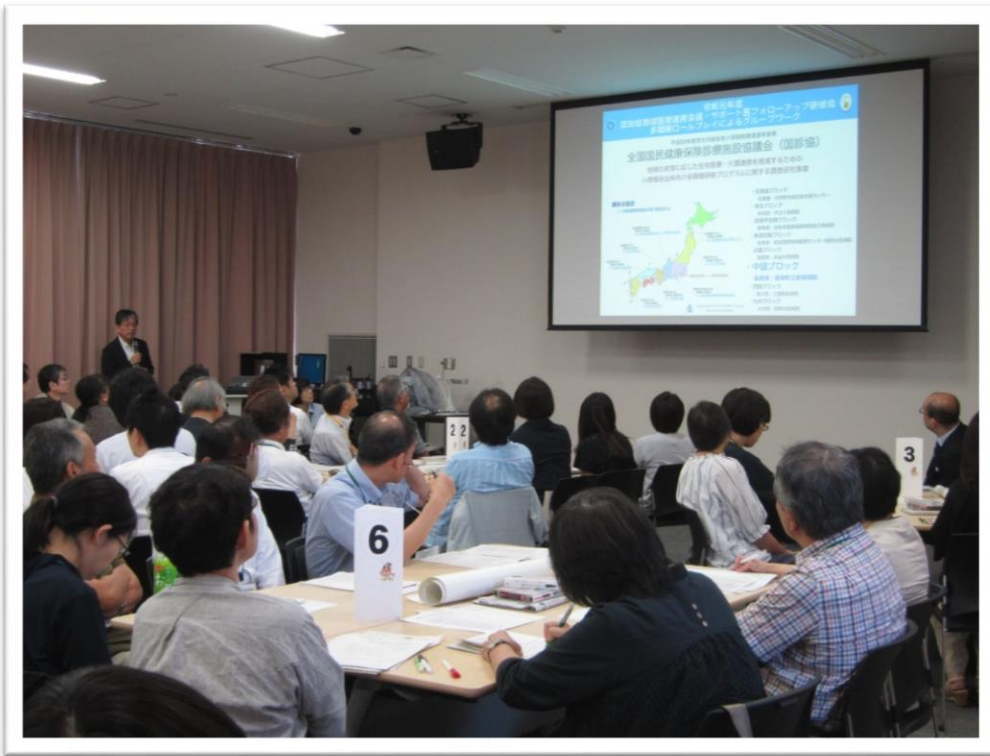
認知症地域医療連携会議

(2018年度までは年2回開催)

年月日	内容・講師
2018/12/9	<ol style="list-style-type: none">1. 県より認知症施策についての報告2. 新規認知症疾患医療センターについて<ul style="list-style-type: none">・ 講師 西川病院連携型認知症疾患医療センター 副院長 松本 貴久 先生3. 認知症サポート医の活動報告<ul style="list-style-type: none">・ 講師 飯南病院 石橋 和樹 先生・ 講師 斐川生協病院 ひかわ医療生活共同組 理事長 金森 隆 先生
2019/7/19	<ol style="list-style-type: none">1. 県より認知症施策についての報告2. 認知症サポート医の活動について<ul style="list-style-type: none">・ 講師 野坂医院院長 野坂啓介 先生・ 講師 独立行政法人国立病院機構 浜田医療センター統括診療部長・リハビリテーション部長 井上幸哉 先生・ 講師 医療法人あすか 理事長 井上貴雄 先生3. 意見交換（多職種ロールプレイによるグループワーク）ファシリテーター： 全国国民健康保険診療施設協議会 調査研究委員会副委員長（飯南町立飯南病院 副院長） 三上隆浩 先生
2021/1/31 (Zoom開催)	<ol style="list-style-type: none">1. 県より認知症施策についての報告2. 新規認知症疾患医療センターについて<ul style="list-style-type: none">・ 講師 隠岐広域連合立隠岐病院 加藤 一朗 先生・ 講師 奥出雲コスモ病院 今岡 大輔 先生3. 認知症サポート医の活動について<ul style="list-style-type: none">・ 講師 社会医療法人仁寿会加藤病院 山口拓也 先生・ 講師 こころの診療所細田クリニック 細田眞司 先生

対象者：認知症サポート医、市町村、保健所、地域包括支援センター、認知症疾患医療センターの職員

2019/7/19 認知症地域医療連携会議



認知症研修会

(2011～2013はかかりつけ医認知症研修会として実施)

年月日	テーマ等	講師
2014/9/20	「認知症の人と家族が安心して暮らすためには ーアルツハイマー病治療薬の位置づけと地域連携ー	・ 日本医科大学武蔵小杉病院内科教授 北村伸先生
2015/10/10	認知症の症候と対応 ～原因疾患別治療・対応の実際～	・ 三次救急大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室講師 数井裕光先生
2016/10/22	認知症の治療診断の最新情報	・ 横浜市立脳卒中・神経脊椎センター臨床研究部部長 日本認知症学会理事長 秋山治彦 先生
2017/9/24	地域で支える認知症ケア ～認知症の人と家族の会、認知症カフェの取り組みか ら～	・ 認知症の人と家族の会前代表理事 高見国生 先生 ・ 藤田保健衛生大学医学部認知症・高齢診療科教授 武知一 先生
2018/8/19	若年性認知症の理解と共に、私達ができること	・ 医療法人藤本クリニック 理事長 藤本直規 先生 ・ 認知症本人の相談窓口 おれんじドア代表 丹野智文 氏 ・ 公益社団法人認知症の人と家族の会 宮城県支部副代表 若生栄子 氏
2019/8/25	認知症の人の意思決定支援 ～その人らしい暮らしを支えるためにできること～	・ 中京大学法務総合教育研究機構 教授 稲葉 一人 氏 ・ 東京ふれあい医療生活協同組合 副理事長、 オレンジほっとクリニック (東京都地域連携型認知症疾患医療センター長)、梶原診療所所長 平原 佐斗司
2021/8/22 (Zoom開催)	認知症と自動車運転	・ 島根県警察本部 ・ 高知大学医学部神経精神科学教室 講師 上村 直人 先生

対象者：認知症の人やその家族にかかわる医療・介護・福祉・行政関係者

2018/8/19研修会 (若年性認知症について)

隠岐2ヶ所益田1ヶ所をTV会議システムで中継



2019/8/25研修会 (意思決定支援について)



メモ：

他の疾患センターや県に、当日の対応や座長など引き受けて頂きながら協力して実施してきました。

認知症セミナー（院内研修）

年月日	内容・講師
2019年度	<ul style="list-style-type: none"> 「BPSD・せん妄に対する対応と薬剤の選択や注意点」 認知症疾患医療センター 副センター長 精神科神経科 長濱 道治 先生 「精神科担当薬剤師から医療従事者へ～知ってもらいたい向精神薬による転倒リスク～」 島根大学医学部附属病院 薬剤部 薬剤師 曾田 重人 氏
2020年度 (Zoom開催)	「みんなで考えよう！！頓服使用時の注意点～（たぶん）日本一敷居の低い精神科薬物講座～」 島根大学医学部附属病院 曾田 重人 薬剤師（精神科薬物療法認定薬剤師）
2021年度 (Zoom開催)	認知症の人の日常生活・社会生活における 意思決定支援 ガイドラインについて 島根大学医学部附属病院 認知症疾患医療センター 濱田 智津子 先生

令和元年度第1回 認知症セミナー

『急性期病院における認知症患者さんへの関わりを考えよう～BPSD・せん妄と薬剤の関連について～』

高齢者の4人に1人が認知症とその予備軍と推測されています。どの職種でも関わることのある認知症患者さん。日頃の関わりで悩ましく思うこともあるのではないでしょうか？実践的な関わり方について学べる研修会となっています。ぜひ、お気軽にご参加ください。

『BPSD・せん妄に対する対応と薬剤の選択や注意点』
認知症疾患医療センター 副センター長 精神科神経科 長濱 道治先生

『精神科担当薬剤師から医療従事者へ～知ってもらいたい向精神薬による転倒リスク～』
島根大学医学部附属病院 薬剤部 精神科薬物療法認定薬剤師 曾田 重人氏

10月21日(月) 対象：院内職員
18:00～19:00 申込：不要
場所：ゼブラ棟 だんだん

お問い合わせ：島根大学医学部附属病院 認知症疾患医療センター
TEL 0853-20-2630

お薬の話 第2弾！

令和2年度第1回 認知症セミナー

『急性期病院における認知症患者さんへの関わりを考えよう』

高齢者の4人に1人が認知症とその予備軍と推測されています。日頃の関わりで悩ましく思うこともあるのではないでしょうか？実践的な関わり方について学べる研修会となっています。ぜひ、お気軽にご参加ください。

さっさと内服したのに、寝目のアースコール！
頓服をどうするに内服してもいいの？
この薬の1日量ってどのくらい？

『みんなで考えよう！！頓服使用時の注意点～（たぶん）日本一敷居の低い精神科薬物講座～』
島根大学医学部附属病院 曾田 重人 薬剤師（精神科薬物療法認定薬剤師）

開催日時 12月15日(火) 18:00～18:45
対象 院内職員とご来賓
開催方法 Zoom参加、もしくはみらい棟4階ギャラキースターの会場参加となります。会場の席は限りがありますのでご了承ください。
参加申込 右下のコードを読み込み、必要事項をご記入の上、お申し込みください。参加方法をお知らせします。読み込み出来ない場合、下記URLからお申し込みください。
締め切り12月14日(月)
<https://forms.gle/fEEur4mGfNUSzosa6>

お問い合わせ：島根大学医学部附属病院 認知症疾患医療センター
TEL 0853-20-2630 mail ninchi@med.shimane-u.ac.jp

令和3年度第1回 認知症セミナー

『急性期病院における認知症患者さんへの関わりを考えよう』

種別から、1人1人が自分で意思を形成し、それを表明でき、その意思が尊重され、日常生活・社会生活を営んでいくことは誰もが望むところですが、このことは認知症の人についても同様です。認知症の人を支える周囲の人において行われる意思決定支援について一緒に考えてみませんか？

『認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドラインについて』
島根大学医学部附属病院認知症疾患医療センター 濱田 智津子 先生

開催日時 6月8日(火) 18:00～19:00
対象 院内職員とご来賓
開催方法 Zoom参加、もしくはみらい棟4階ギャラキースターの会場参加となります。会場の席は限りがありますのでご了承ください。
参加申込 右下のコードを読み込み、必要事項をご記入の上、お申し込みください。参加方法をお知らせします。読み込み出来ない場合、下記URLからお申し込みください。参加者確認のため、お一人ずつ個別にお申し込みをお願いします。締め切り6月7日(月)17時
<https://forms.gle/pK3ijXUjN9tjAh367>

お問い合わせ：島根大学医学部附属病院 認知症疾患医療センター
TEL 0853-20-2630 mail ninchi@med.shimane-u.ac.jp

2019年度認知症セミナーの様子



認知症疾患医療センターだより (院内向けに情報発信)

認知症疾患医療センター

だより VOL16

令和2年度認知症セミナー開催しました 2021年3月発行

精神科薬物療法認定薬剤師である曾田薬剤師より「みんなで考えよう!! 頓服使用時の注意点~ (たふん) 日本一敷居の低い精神科薬物講座~」という演題でご講演いただきました。

今回は新型コロナウイルス感染症の予防対策にて初めてのZOOMを使用したオンライン配信での開催となりましたが、54か所からの多数のご視聴をいただきました。ご参加いただきありがとうございます。

<アンケート結果>
★全員が非常に参考になった・参考になったと答えられていた。

お薬について気になることがあれば気軽に相談ください



講義の様子

※たくさんのご意見を頂きました中で一部抜粋して掲載させて頂いています。

■参考になった点

- ・薬剤の効用や副作用が理解することで、**転倒予防**に役立つ
- ・薬剤の効果や作用時間を知った上で**効果的に使用**することを理解できた
- ・**向精神薬、抗精神病薬**について理解できた
- ・**せん妄を起こしやすい薬剤**が分かった
- ・**観察ポイント、声かけ**が参考になった
- ・薬剤の選択、**半減期を意識した投与時間の調整**について理解できた
- ・困ったときに**聞ける道筋**ができた

今回のセミナーでは、薬の効能、半減期、せん妄をおこしやすい薬剤、また観察のポイントや声かけの方法など、非常に実践に役立つ内容でした。症例もあり具体的に分かりやすく、ご視聴の皆様からも高評価を頂きました。アンケート結果にもあるようにお薬で困ったときはぜひ薬剤師さんに声をかけて下さい。オンライン開催のため在宅でも講演を視聴することができ、普段家庭の事情などにより参加ができなかった方もご視聴頂きました。ご意見・ご要望から認知症患者さんに対していろいろな悩み・困難を感じながら対応されていることが分かりました。そして今後取り上げて欲しいテーマについてもたくさんのご要望をいただきました。勉強会を定期的に関催して欲しいという意見もあり、今後検討していきたいと思っております。

★認知症知識★

- 65歳未満で発症する認知症を**若年性認知症**と言います。
- 若年性認知症の人は、**就労や生活費、子供の教育等の経済的な問題**が大きいです。介護者が配偶者となる場合が多く、時に本人や配偶者の親等の介護と重なって**複数介護**になることがあります。
- 若年性認知症支援コーディネーター**とは⇒関係機関と連絡をとりながら、様々な相談(就労や収入に関する事、日々の暮らしに関することなど) 対応を行っています。島根県内には3名おられます。

当院1階薬室薬剤師がパンフレットをお取りくださいますので自由に



島根大学医学部附属病院 しまね認知症疾患医療センター
TEL : 0853-20-2630 (内線2630) www.shimane-ninchi.jp

認知症疾患医療センター

だより VOL17

令和3年度認知症セミナー開催しました 2021年8月発行

今回のセミナーは、以前よりアンケートの中でも取り上げて欲しいテーマとして多くあった意思決定について、「**認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドラインについて**」濱田智津子先生よりご講演いただきました。

今回もZOOMを使用したオンライン配信と会場を併用した開催となりました。ZOOMは43か所、会場は22名の参加がありました。アンケートの結果参考になったと回答された方が9割以上でした。お忙しい中ご参加頂きありがとうございます。



講義の様子

<アンケート結果>

■参考になった点

- ・意思決定において**本人の意志を最優先する事が重要**だと言う事が分かった
- ・参考資料など**ガイドライン**がある事を知り、支援の仕方が理解できた
- ・意思決定の難しさ、**支援者の能力の向上**が必要だと感じた
- ・**意思決定支援のプロセス**の説明が印象に残った
- ・内容が具体的で、日々の関わりの中ですぐに取り入れることができそうだと感じた

※たくさんのご意見を頂きました中で一部抜粋して掲載させて頂いています。

アンケートの結果、本人の意志を尊重する必要がある事、医療者側に知識の向上が必要である事、意思決定支援の難しさを改めて実感した、具体的な接し方と対応について分かりやすく、実践に即した内容でありとても参考になったという意見がたくさんありました。

今回のセミナーをきっかけに、意思決定について考える機会になったのではないかと思います。認知症について知識を深め、認知症の方が安心して受診、治療・療養できるよう、院内のスタッフの対応力向上に貢献できれば幸いです。

今後実践に役立つようなセミナーを定期的に関催していきたいと思っております。

★認知症知識★

認知症疾患医療センターとは⇒認知症に関する詳しい診断、行動・心理症状(BPSD)や身体合併症への対応、専門医療相談などを行う医療機関。かかりつけ医や介護・福祉施設、地方自治体とも連携し、地域の中で認知症の方やその家族に、適切な専門医療を提供する役割を担っている。

島根県内の認知症疾患医療センターの設置状況は、当院を基幹型として、地域型と連携型を合わせて10ヶ所設置されています。

<具体的な役割>

- ①専門医療相談
- ②鑑別診断と治療方針の決定
- ③行動・心理症状(BPSD)・身体合併症への対応
- ④地域の関連機関との連携
- ⑤連携協議会・研修会の開催・啓蒙活動

染病相談室のと並びにあります。お気軽にお立ち寄り下さい。



島根大学医学部附属病院 しまね認知症疾患医療センター
TEL : 0853-20-2630 (内線2630) www.shimane-ninchi.jp

認知症疾患医療センター研修会（意思決定支援について）

島根県健康福祉部高齢者福祉課と共同で開催

対象：認知症疾患医療センター職員等

年月日	内容・講師
2021/09/07	講 義：「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン」について 講 師：出雲市立総合医療センター 濱田智津子 氏

【講義】

- ・ガイドライン作成までの背景
- ・外してはいけないポイント
- ・最近の話題（認知症の人への新型コロナワクチン接種）

【意見交換】

- ・精神科の臨床では非自発的入院などもあり、意思決定のプロセスはセンシティブ。
- ・地域での風土づくりが重要。意思決定支援はまちづくりそのものとの意見もある。
- ・重度の認知症の人の場合、家族、地域の困りごとを優先しがち。
- ・例えば、BPSDの人は認知機能が下がっていても本人の思いを口に出さないなど状態によって様々。具体的な事例を多く確認しあう場を設けることも必要。

認知症疾患医療センター研修会を受けて

連動した企画で、認知症の人にやさしい風土づくりをオール島根で進めていきます。

認知症サポーター活動促進事業

チームオレンジ研修会

— 認知症の人の日常生活・社会生活における
意思決定支援の視点から考える —

**参加
無料**

日時 令和3年 **12月15日(水)** 10:00~15:00

会場 パルメイト出雲 4階 パルメイトホール
(出雲市今市町2065)

講師 出雲市立総合医療センター 在宅ケア科
医師 **濱田智津子** 氏

認知症の人と家族の会島根県支部
代表世話人 **黒松基子** 氏
(オレンジチューター)

研修会 内容



- ・ チームオレンジの概要/島根県内の取組状況
- ・ 認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定ガイドラインについて
- ・ オレンジチューターからの情報発信など

申込 申込QRコード

こちらのQRコードにより申し込んでください。
申込〆切 12月6日(月)

お問い合わせ：島根県 健康福祉部 高齢者福祉課

TEL 0852-22-6341 (担当：地域包括ケア推進室 高齢)

認知症サポーター活動促進事業「チームオレンジ」研修会 開催要領

背景・目的	島根県では、認知症になってからも安心して暮らせる地域づくりを目指して、令和元年度からチームオレンジ研修会を実施し、「チームオレンジ」の構築へとつなげてきました。 令和3年度は、「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定ガイドライン(H30.6)」を学ぶ機会を提供するとともに、オレンジチューターからの情報発信や意見交換などを実施しながら、認知症の人や家族への生活面における早期からの支援を図り、認知症サポーターのさらなる活躍について考えていきます。		
主催	島根県	日時	令和3年12月15日(水)10:00~15:00 (受付開始 9:30~)
会場	パルメイト出雲 4階 パルメイトホール(出雲市今市町2065)		
対象	市町村、地域包括支援センター、認知症地域支援推進員、認知症疾患医療センター、認知症の人と家族の会、認知症介護指導者、生活支援コーディネーター、保健所など認知症関係者 【定員 60名程度】		
内容	<p>【午前中の部】 10:00~12:00</p> <p>1. 行政説明 (制度概要、県内のサポーター・メイトの活動概要) [10分] 島根県 健康福祉部 高齢者福祉課 地域包括ケア推進室</p> <p>2. 「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定ガイドライン」について 出雲市立総合医療センター 濱田智津子 氏</p> <p>(1) 講義 [50分] (2) 意見交換 [60分]</p> <p>----- (休憩 12:00~13:00 [60分]) -----</p> <p>【午後の部】 13:00~15:00</p> <p>3. チームオレンジの設置に向けて 認知症の人と家族の会島根県支部 代表世話人 黒松基子 氏 (オレンジチューター)</p> <p>(1) 講義 [60分] (2) 意見交換 [50分]</p> <p>4. まとめ [10分]</p>		

※ QRコードにより12月6日(月)までに申込してください。
※ 感染症対策を講じて実施しますが、状況によっては中止となりますのでご了承ください。

今後について・・・

- 診断後の支援

⇒ 地域包括支援センターやケアマネジャー等へ情報提供。

- 若年性認知症

⇒ 若年性認知症支援コーディネーターと連携。

- 認知症と自動車運転

⇒ 診断書・相談対応。免許センターや地域包括支援センター等と連携。

- 認知症の意思決定支援

⇒ 現在、基礎的なことを勉強中。

今後、これについて考えていく研修会の実施を検討。

- 認知症の緩和ケア

⇒ 精神科リエゾンにおいて、かかわる機会があると思われる。

まとめ

- 大学病院であることから、『敷居が高い』というイメージは、どうしてもついてくるため、これをいかに崩していくかが課題。できうることを地道に、コツコツと診療していくことが大事。
- 大学病院であることをいかして、診断のための特殊検査(MRI、シンチ)や認知症患者の身体合併症やBPSD出現時の入院加療等で協力をすることが大事(精神科リエゾンチームでの活動も)
- 認知症に対する医療・ケアにかかわる人材育成を考えることも重要。(自身の知識・技術を磨くことも大事)
- 情報交換会を通じて互いの役割を理解していくことは続けるべきである。

⇒オール島根ですすめていくことが大事である。

ご清聴いただき、ありがとうございました。
